

2025年 安全報告書

京福電気鉄道株式会社

2025年 安全報告書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

＜目 次＞	頁
1. ごあいさつ	1
2. 基本方針	2
3. 事故等の発生状況とその再発防止	3
(1) 鉄軌道運転事故	
(2) 自然災害（地震、暴風雨、落雷など）	
(3) 輸送障害（30分以上の遅延や運休）	
(4) インシデント（事故の兆候）	
(5) 行政指導等	
4. 輸送の安全を確保するための取組み	5
(1) 安全対策のための設備等の改善	
(2) 安全教育	
(3) 異常時対応訓練	
5. 安全管理体制	8
(1) 輸送の安全を確保するための体制	
(2) 役職及び役割	
6. 地元の皆さまとの連携とお願い	11
(1) 踏切事故防止キャンペーン	
(2) こども110番の駅	
(3) 併用軌道走行時のお願い	
(4) 『嵐電教室』の開催	
7. ご連絡先	12



1. ごあいさつ

～ご利用のお客さまならびに沿線の皆さまへ～

平素は当社嵐山線、鋼索線、架空索道をご利用いただきありがとうございます。

また、当社線沿線でのさまざまな取り組みについて、地域の皆さまに、ご理解、ご協力いただき、重ねて御礼を申し上げます。

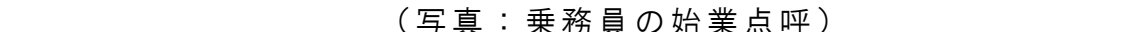
当社ではお客さまの安全・安心を経営の最重要方針として掲げ、公共交通に携わる者として、全役職員が安全最優先の原則のもと、輸送の安全を確保するため、法令の遵守に努めてまいります。

この報告書は、鉄道事業法及び軌道法に基づき、輸送の安全確保のための取り組みや安全の実態について、自ら振り返るとともに、広くご理解をいただくために公表するものです。

今後、より一層安全輸送への取り組みを充実させるため、皆さまからのご意見、ご感想をお寄せ頂ければ幸いです。

京福電気鉄道株式会社
代表取締役社長 大塚憲郎







3. 事故等の発生状況とその再発防止

(1) 鉄軌道運転事故

2024年度においては車両脱線を含む運転事故が5件（前年度8件から3件減少）、輸送障害が14件（前年度7件から7件増加）発生し、死傷者を伴う事故は0件でした。

特に、9月に発生しました車両脱線に関しましては、重く受け止め鉄道総合技術研究所にも原因究明を依頼するとともに、再発防止策を実施いたしました。

今後も監督官庁である国土交通省近畿運輸局及び所轄警察署をはじめ関係各所と連携し、事故削減に取り組んでまいります。

引き続き次年度も事故件数対前年比削減を目標に掲げ、事故防止に努めてまいります。

(2) 自然災害（地震、暴風雨、落雷など）

主なものでは、嵐山線において9月22日に発生した雷害により西院地域一帯が停電したため、一時的に全線の運行を取りやめました。また、鋼索線においては、雷の影響による輸送障害が5件、倒木が3件発生しました。

近年、異常気象による被害が頻発しており、お客さまの安全を最優先とするため、計画運休も含めた対応を行うなど、これまで以上に自然災害への対応力向上の取組みを進めてまいります。発災時にはお客さまにご不便をおかけする場合も予想されますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。



(3) 輸送障害 (30分以上の遅延や運休)

嵐山線においては、輸送障害が6件（うち3件は雷の影響もしくは社外原因）発生しました。

鋼索線においては、8件（8件とも雷の影響もしくは倒木による自然災害）発生しました。

自然災害や社外原因に起因するものが多いものの、一方で社内原因では、車両設備や電気設備等の老朽化による故障が原因となっており、30分に満たないものも数件発生しております。

そのため、今後も設備・機器の更新、日常の点検・整備を確実に実施し、輸送障害の未然防止と速やかな復旧に努めてまいります。

(4) インシデント（事故の兆候）

10月に嵐山線四条大宮4号踏切道において、列車が通過する前に踏切警報がやみ、遮断桿が上昇するインシデントが発生しました。原因は係員による機器の取扱い誤りであったため、同機器の手動操作部分を自動化に改修し、再発防止を図りました。また、嵐山線全踏切道を点検し、同様の事案が発生する踏切道がないことを確認しております。

(5) 行政指導等

１１月 嵐山線において、監督官庁である国土交通省近畿運輸局による軌道保安監査が実施されましたが、指摘事項はございませんでした。



4. 輸送の安全を確保するための取組み

(1) 安全対策のための設備等の改善（主要な工事）

項目	設備名	内容	場所・対象
線路・電気設備	踏切設備改修	障害物検知装置の新設 ならびに踏切ブロック の更新を実施	障害物検知装置 新設4箇所 踏切ブロック 更新山ノ内1 号踏切
電気設備	電柱のコンクリート柱化	老朽化した木製や鉄製の 電柱のコンクリート 柱化を実施	北野線13本
線路設備	重軌条化	レールの耐久性を向上 させ列車運行の安全性 向上を図る	帷子ノ辻駅構内
駅設備	バリアフリー設備	駅にスロープ設備等を 整備し、バリアフリー 対応を実施	太秦広隆寺駅 下りホーム
車両設備	車両更新1両	老朽化した車両の更新 を行い、安全性向上・ エネルギー効率向上を 図る	モボ1形 1両 (KYOTRAM)



（写真：車両更新により導入された KYOTRAM）

運転士・駅務員については２０２４年度において、年間４回の安全教育を行い、併用軌道での運転操作や、車両故障発生時の対応方法等について教育しました。

(写真：係員による車いす介助教習)

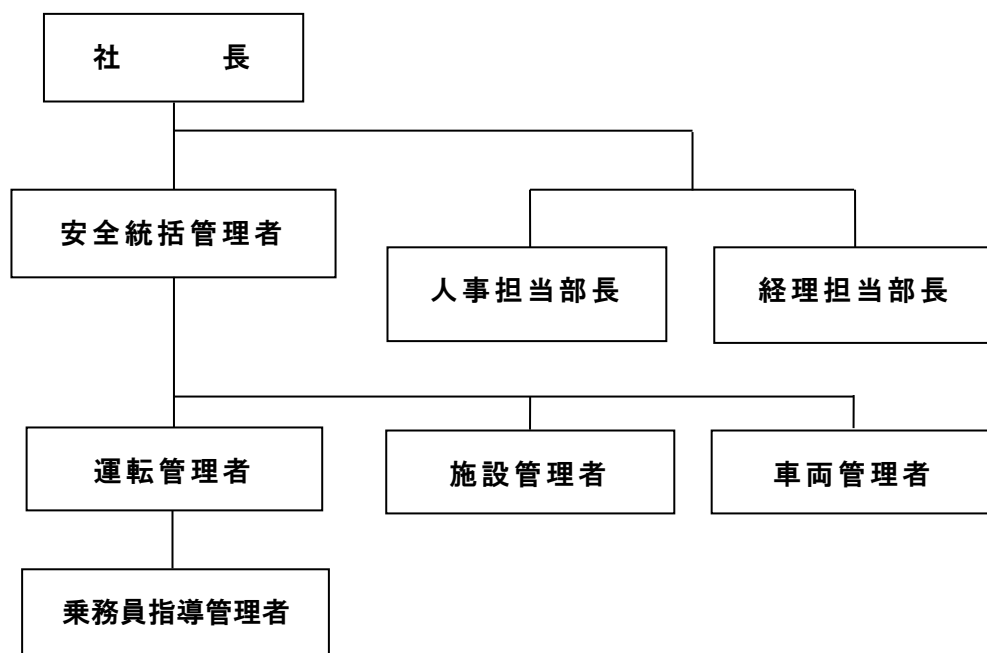
(写真：総合復旧訓練)

鋼索線・架空索道においては、それぞれ年１回、駅間停車時の救助訓練を実施し、非常の場合にお客さまを最寄り駅まで誘導する手順を確認しました。

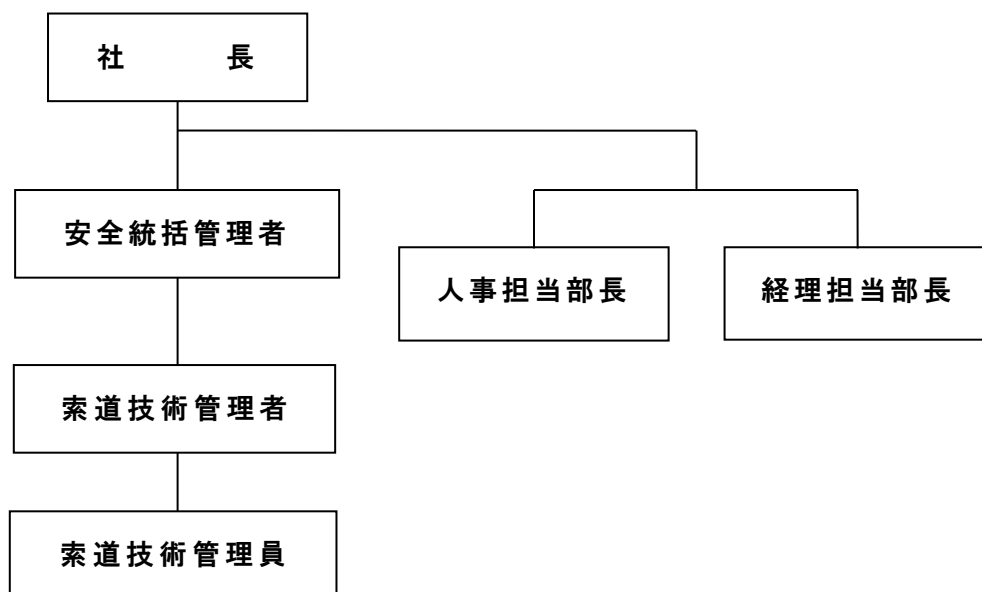


【嵐山線】





【架空索道】



(1) 踏切事故防止キャンペーン

ここは 嵐電(有栖川線)の
せうしんじ 1 丁目

妙心寺 1号

踏切です

二子駅 徒歩5分
非常時の連絡先
075-801-2512

万一、踏切に異常を発見された場合は踏切付近に設置の看板の宛先までご一報くださいますようお願いいたします。

(2) こども 1 1 0 番の駅

登下校時のお子さまを犯罪から守るための運動に参加し、当社も駅事務所等に関西鉄道協会の統一ステッカーを掲出しています。



(3) 併用軌道走行時のお願い

平素は併用軌道における電車運行にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

道路交通法第21条第3項により併用軌道敷内は原則通行不可となっています。通行不可の区間は危険ですので軌道敷内を走行されないようお願いいたします。また、一部区間については通行可能となっていますが、併用軌道を走行される際は、前後の電車の接近にご注意いただき、電車の接近時には軌道敷外を走行いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

(4) 『嵐電教室』の開催

12月、嵐山線沿線の小学生を対象に朱雀第七小学校、御室小学校の生徒の皆さんを西院車庫内に招き、安全な踏切の渡り方などを知っていただくため、『嵐電教室』を開催しました。

今後も沿線の児童向けに『嵐電教室』を開催し、鉄軌道の安全な利用について学ぶ場をご提供してまいります。

7. ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の安全に関する取組みに対するご意見、ご感想は以下へお願いいたします。

京福電気鉄道株式会社

管理部（総務・広報担当）

TEL 075-841-9381

FAX 075-841-4043

（9:00～17:00 土・日・祝日、年末年始を除く）

